

ユーザーレポート

ゼロ
0の証明

個人

夜中の飲酒運転がピタリと止まった

アルコールインターロックがもたらした家族の穏やかな日常

毎晩のように続くご主人の飲酒運転と、お酒をめぐるトラブルに深く悩み、すり減るような日々を送っていた奥様にお話を伺いました。アルコール依存症の夫を支える妻としての計り知れない葛藤と、車に「アルコールインターロック装置」を取り入れたことで、家族の日常に訪れた劇的な変化と安らぎについてお届けします。

ご利用機器

カメラ付き
アルコールインターロック装置

ALC-ZEROⅡ



夜のコンビニ通いという恐怖

東京出身で現在は避暑地エリアにお住まいの奥様(50歳・精神科訪問看護師)です。ご家族は、同居するお母様、ご主人、中学生の娘さん、そして22歳の息子さんの5人家族です。

ご主人(50歳)は貸別荘の管理の仕事をしており、日々の業務でさまざまなお客様の対応など強いストレスを抱えていました。もともと20代の頃からの長い飲酒歴がありましたが、年齢を重ねるごとに飲酒量が右肩上がりに増加。ここ10年は仕事のプレッシャーやストレスを紛らわせるように、毎晩のようにアルコール度数9%のストロング系チューハイの500ml缶を2本、350ml缶を3本程度、さらにビールや軽めの焼酎などを大量に摂取するようになっていました。



夜になると、大量のアルコールを飲んだご主人は毎晩8時頃という早い時間に寝てしまうのですが、問題はその後にあります。深夜にアルコールが切れて目が覚めると、車を運転して自宅から車で2〜3分ほどの距離にある近くのコンビニへ、追加のお酒を買いに行ってしまう危険な行動を繰り返していたのです。本人は夜間に起きて出かけても気づかれないと思っていましたが、同居しているお母様が深夜の部屋で空き缶が増えていることに気づいたことで、その危険な夜の買い出しの実態が発覚しました。



■深刻化する健康リスク

ご主人の健康状態は年々悪化しており、体には深刻なリスクが山積していました。夜中に車でコンビニへ買い出しに行く際には、お酒だけでなく揚げ物なども一緒に買って食べていたため体重が増加し、肝機能の数値も大きく悪化していました。さらに、糖尿病や高血圧、心肥大の疑いから心臓の薬を服用しているほか、小児喘息の既往があり慢性閉塞性肺疾患(COPD)の疑いも持たれていました。しかし、本人はタバコを手放すことができず、「お酒よりもタバコの方がやめられない」と言って喫煙を続けている状況でした。

かつてかかりつけ医から「このままだと死ぬぞ」と強く警告されたものの、その言葉に反発して通院をやめてしまい、その後は別の優しい医師のもとへ通うようになったという経緯もあります。また、アルコール依存の専門外来へも受診を試みたことがありましたが、予約の取りづらさや本人の拒絶感から治療を継続できず、中断してしまっていました。「いつか飲酒運転で大きな事故を起こしてしまうのではないか」、そして「このままでは取り返しのつかないことになるのではないか」という計り知れない不安と恐怖が、毎日奥様の心を激しく締め付けていました。



ユーザーレポート

ゼロ
0の証明

個人

家族の絆が動かした 「アルコールインターロック装置」の導入

奥様が車への「アルコールインターロック装置」の導入を提案した当初、ご主人は「絶対にダメだ」と強く拒絶していました。しかし、この膠着状態を打ち破ったのは、同居する22歳の息子さんの存在でした。ご主人と息子さんは、MotoGPの観戦やゴルフと一緒に出かけたりと趣味が合い、非常に良好な関係を築いていました。遊びに行く際、手持ちのないご主人のために息子さんが費用を出してあげることもあり、ご主人にとって息子さんは、気を許せる親友のような存在であると同時に、どこか頭が上がらない相手でもあったのです。普段の旅行や外出時にも父親の精神的な支えとなっていた息子さんは、奥様に加勢し、自らインターロック装置について調べ、熱心に説得にあたってくれました。娘さんが半ば諦めかけて距離を置いている状況の中でも、一番心を許し、趣味を共有する息子からの言葉だったからこそ、ご主人も耳を傾け、ついに装置の受け入れを決断したのです。配偶者からの言葉にはどうしても反発してしまう状況でも、ご本人が一番心を通わせている家族がキーパーソンとなって説得にあたることで、頑なだった心が動くことがあります。息子さんの深い理解と強力なサポートという「家族の連携」が、解決への大きな鍵となりました。車にアルコールインターロック装置が取り付けられてから、ご家族の日常には嘘のように穏やかで安心できる時間が戻ってきました。



※写真はイメージです

■夜中の飲酒運転が完全にゼロへ

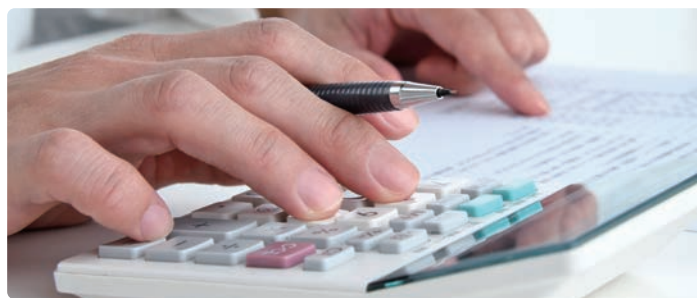
エンジンをかける前に必ずアルコール測定を行わなければならない仕組みになったことで、深夜に「お酒を買いに行こう」と思っても車が動かなくなりました。最初は戸惑いもあったものの、物理的に運転ができない環境になったことで、夜中に車を出すことはピタリとなくなり、現在は諦めてぐっすり眠るようになりました。「いつか事故を起こすのではないか」という毎夜の恐怖から解放されたことは、奥様にとって何よりの救いでした。



※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

■自分で考え、管理する前向きな変化

驚いたことに、ご主人は翌朝の出勤時間に確実にアルコールを抜いて測定をクリアするため、何時間前に飲めばどれくらいで抜けるのかを自分で一生懸命に研究・計算し、出勤に合わせた飲酒のコントロールをするようになりました。その姿に、奥様も「その研究熱心さを別のところに生かしてほしいと笑ってしまうほどですが、自分で考えて行動する変化が見られたのは嬉しい驚きでした」と振り返ります。



■職場の同僚たちの温かい理解と協力

職場での移動にも大きな変化がありました。以前はご主人の車（ミニバン）に同僚たちが乗り合わせて出かけることが多かったのですが、現在はアルコールインターロック装置が付いているため、始動前に必ず測定をクリアしなければなりません。そうした事情を長い付き合いである職場の仲間たちも温かく理解してくれており、現在では別の車を使って乗り合わせて出かけることが増えました。ご主人がハンドルを握れない中でも、周囲のさりげないサポートと配慮に支えられながら、無理なく仕事を続けることができています。



■家族みんなの安心と、心からの感謝

大きな事故を未然に防ぐことができたという安心感はもちろんのこと、何より「家族みんなが穏やかに笑顔で過ごせるようになったこと」が一番の変化です。車を買替える際も「次も当然センサーを付けるよ」とご主人が自然に受け入れてくれているように、今では「本当にあのとき装置をつけてよかった」と、奥様も、そしていつもお父さんに寄り添う息子さんをはじめとするご家族全員が、心からの感謝と安堵の気持ちを抱いています。



ユーザーレポート

ゼロ
0の証明

個人

看護師としての視点と、 これから紡ぐ穏やかな日常

現在、奥様は精神科の訪問看護師としても働き、アルコール依存症に悩む患者たちの在宅支援に深く向き合っています。医療現場において、アルコール依存が脳血管障害などを引き起こし、半身麻痺といった取り返しのつかないリスクにつながる現実を、奥様は何度も目の当たりにしてきました。だからこそ、すべてを無理に病院へ強制入院させるのではなく、「家族の温かい見守り」と、服薬の管理、そして何よりアルコールインターロック装置による「物理的な予防」を上手に組み合わせるとい、現実的で温かな支え方を選び取りました。

夫をひとりの人間として大切に思いながらも、専門職としての冷静な視点で健康と安全を守り抜く……。その強さと優しさは、日々の看護の現場での経験にも裏打ちされています。

そして、その日々の暮らしを支えているのは、決して奥様一人だけの力ではありません。大好きなMotoGPの観戦やゴルフなどを通じて、いつも父親に寄り添い精神的な大きな支えとなっている息子さんの存在があり、音楽フェスなどの楽しい時間を一緒に分かち合う娘さんの姿もあります。それぞれの子供たちが父との時間を大切にし、家族をそれぞれの形で思いやっています。息子さんの深い理解と協力、家族それぞれの温かな絆、そして車という物理的な安全装置がしっかりと手を取り合ったことで、かつては毎夜の恐怖におびえていた家庭に、かけがえのない平穏と笑顔が戻ってきました。

「本当につけてよかった」。同じようにパートナーの飲酒や夜ごとの運転に深く悩み、出口の見えないトンネルにいる全国の家庭にとって、この家族の歩みと決断は、確かな一筋の希望となるはずです。



取材ご協力

家族を守る方法の手段として、
アルコール・インターロックを導入されたKさんご一家



アルコール・インターロック
社会実装と個人装着を推進する

特設サイト

アルコール・インターロック.com
～飲酒運転加害者をゼロに～

東海電子WEBサイト

【アルコール・インターロック.com】

<https://alcohol-interlock.com/>



LINE 公式アカウント

大切な人の飲酒運転で 悩まれていたら…

@700xyfip



いつでも LINE で ご相談ください！